

## イラン情勢研究会について

### 【研究概要】

本研究会の目的は、2009 年大統領選挙以降のイラン情勢を踏まえ、同国の内政・外交政策に関する考察を行うこと、およびイラン情勢が中東地域・国際政治に及ぼす影響について総合的に論究することである。

昨今のイラン国内における政治エリート間の亀裂は著しく、先の大統領選挙後には、改革派を中心にイスラーム共和国体制の既存権益層に対する異議申し立てが顕現化した。本研究会では、未だ実態解明がなされていない同国内政・外交に対する詳細な分析を行い、その政策決定過程に関して分析を加え、同国が直面する国内的課題について検討したい。また、イラン情勢は一国内でとどまる性質のものではなく、中東地域、さらには国際政治にまで影響を及ぼすものである。周知のように、イランの進める核開発は国際社会が直面する重要課題となっている。

また、イラク・湾岸諸国・レバノンなど周辺国に対する影響力も強固であり、エネルギー・経済問題の点からも重要なアクターである。本研究会では、イラン内政・外交に関する分析を踏まえ、域内・国際政治のより広い視野からも考察を行ない、イランに関する総合的な調査研究を目指す。

### 【これまでの成果】

本研究会は、2009 年 10 月に発足した。2009 年度内に計 4 回の研究会を実施する予定である。研究会の報告・議論を踏まえ、研究成果として報告書を今年度末に作成する予定である。

### 【研究会メンバー】

主査：

山内昌之 東京大学

委員：

秋山 信将 一橋大学

大野 元裕 中東調査会

加藤 普 総合研究開発機構 (NIRA)  
佐藤 秀信 法務省  
鈴木 恵美 早稲田大学  
高岡 豊 上智大学  
立山 良司 防衛大学校  
山崎 和美 中東調査会

委員兼幹事：

横田 貴之 日本国際問題研究所